

布施の心

18

本多 克也
(略字も)
文・徳永 耕一

【独立(1)テフロン】

「独立」は、会社勤めをしている者なら誰でも一度は頭をよぎるものだ。その言葉の響に憧れる人も多い。

しかし、実際の独立は容易ではない。

組織の中での昇任は、階段をしつかり踏みしめて上つてけば達せられることが多い。しかし、独立はあるかも別の衛星に乗り移るようなもので、大きな飛躍とエネルギーを必要とする。そして、孤独に耐える忍耐心も。

一九七一年九月、私は日本ダッジファイバーズを退職して独立した。三十四歳だった。

この年、ドルショックが起きて、戦後長く続いた1ドル360円は308円になった。さらに、一九七三年二月には完全な「変動相場制」へと移行し、以後次々と円が切り上げられてゆく。

また、一九七二年には沖縄返還、日中國交正常化などがあり、重要な出来事が国内外で相次いだ。

私の退職は、会社の反対を押し切つてのものだったのでも、残念ながら会社からの支援はいつさい得られなかつた。

製品に関する資料も得意先のデータも、およそ開業に必要なものは何もかも会社に置いてきた。私が携えてきたのは、妻子とテフロンへの熱い思いだけだった。

会社を出たとき、不安と期待が錯綜する中で、母や宮崎先生や中野先生や宮崎輝さんや岡野さんや、今までお世話になつた方々の顔が走馬灯のように頭を駆け巡つた。そして、故郷雲仙の勇姿も頭に浮かんできた。

「これからが本当の勝負だな」私は自分に言い聞かせつつ、

ふつと大きなため息をついた。

まず落ち着いた先は、横浜市の6階と4階平しかない借



当時の家族写真(昭和47年)

2023年3月本多産業株式会社は
設立50周年を迎えました。
本多産業株式会社
【本 社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814
TEL:045-869-1133
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677
TEL:0957-38-3520

家だつた。そこが私たち家族四人の住まい兼事務所兼工場だつた。

今までの安定した生活は、一朝にして超不安定な生活に陥つた。覚悟の上とはいえ、それは思つていた以上に厳しいものだつた。

その後、これ以上切り詰めようがないくらい生活費を切り詰めたが、蓄えは日に見えて減つてゆき、生活は困窮した。ともかく、現金を稼がなければ食つていけないので、森永製菓の担当の方に「どんな仕事でもいいので、いただけませんか」と頼み込み、既製品を一個二百円くらいのわずかな利益で卸させていただくなどして、飢えをしのいだ。

会社の登記も必要になつたが、節約のため、司法書士に頼まずに自分で申請することにした。

文具店で書式を買い近所の人々に頼み込んで発起人になつてもらい、なんとか申請書の形を整えた。

それを持って登記所に行くと、申請の列ができていた。ようやく順番が回つてきたが、担当官は間違いを一力所すつしか指摘してくれない。指摘を受けては訂正して並び直し、その繰り返しで三日かかった。

仕事は、少しずつ製品化のめどがついてきたが、やはり資金面の壁が大きかつた。

思い切つて近くの銀行に融資の相談に行つたが、交渉は期待はずれだつた。

「預金通帳はお持ちですか？」

「いいえ、ありません」「それではすぐにはお取引は無理ですね。先ず通帳を作つて、ある程度経過を見て融資を検討させていただきますよう」「一年近くはかかります」「一年近くはかかります」

今、設立資金が必要なのに、一年後では全然話にならない。私は交渉を諦めて、肩を落として銀行を出た。